令和３年度　中央区立久松幼稚園　自己評価報告書
中央区立久松幼稚園　　住所　東京都中央区日本橋久松町７－２ 園　長　　川越　裕子 幼児数　　１８４名　　学級数　７　　教員数　１９　名　　職員数　　２２　名
教育目標 　人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人と関わりながら、節度ある礼儀や基本的生活習慣、規範意識の基礎を培うことを目指し、次のような子どもの育成に努める。 　**〇たくましい子**　　・心身ともに健康な子を育てる。 　**〇進んでやる子**　　・素直に表現し、自ら考え進んで行動できる子を育てる。 　**〇心豊かな子**　　・思いやりの心をもち、心豊かな子を育てる。

教員・保護者のアンケート結果から分かったこと

令和３年度の重点　　豊かな心と健やかな体の育成（連続性のある久松の教育を推進）

重点目標１

様々な経験を積み重ね、必要な習慣や態度を身に付け、自分から進んで健康で豊かな生活をつくり出す力を養う。（道徳性の芽生え・規範意識・自立の芽生え）

評価指標：

① 基本的な生活習慣について、個々の発達に応じて身に付けていかれるような保護者への支援ができたか。

② 身支度や食事の支度などにおいて、新型コロナウイルス感染症予防に対応した対策を取りながら、幼児が必要な習慣や態度をしっかりと身に付けることができたか。

③ 主に登園時について、目を見て心を通わせながら園長や教員とあいさつをすることができていたか。

重点目標２

学級・学年を超えた関わりをもてるような交流を大切にし、様々な感情体験をしたり触れ合いの温かさを感じたりして、思いやりの心を育む。

（多様な関わり、思考力の芽生え、協調性、言葉による伝えあい、認め合い）

評価指標：

① 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を取りながら、異年齢、他校種のとの交流活動の機会を工夫してもつことができたか。

② 「異年齢の友達との関わりを深めながら心豊かな子どもを育てるために」を研究主題とした園内研究に取り組み、コロナ禍における交流のあり方やそこで得られる感情体験をまとめ、その後の遊びや幼児の育ちにつなげることができたか。

重点目標３

主体的に多様な運動遊びやイメージを豊かに表現する遊びをし、たくましい心と体を育成する。

（協調性、道徳性の芽生え、製作や体の動きによる表現、言葉による伝え合い）

評価指標：

① 幼児がイメージを広げながら自分なりに遊び方を考えたり友達と遊ぶ楽しさを感じたりすることができたか。

② 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の刺激を受けたり、運動遊び推進園とし

てのテーマに向けた保育室内外での運動遊びの機会や環境を活用して幼児が運動遊びに喜んで取り組んでいたか。

重点目標４

幼稚園と家庭・地域とが連携し、「共に子育て」という意識を共有し、子育てを充実させる。

（地域や家庭との連携・社会生活との関わり）

評価指標：

① ホームページや学年だより、学級だより等を活用し、幼児の園生活の様子や育ちを分かりやすく発信することができたか。

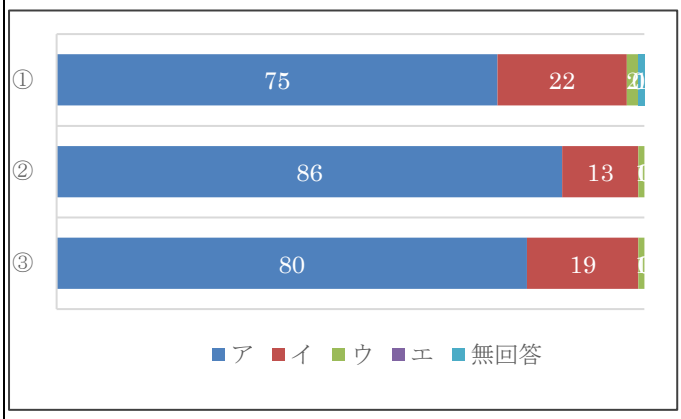
② 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を行いながら、保護者会、学級懇談会、個人面談を実施したり、園長や主任に相談できるような機会を設定したりして、保護者の相談に十分に応じることができたか。

③ 地域の方と接する機会で積極的に園児の様子や育ちを発信し、より協力を仰ぐことにつながったか。

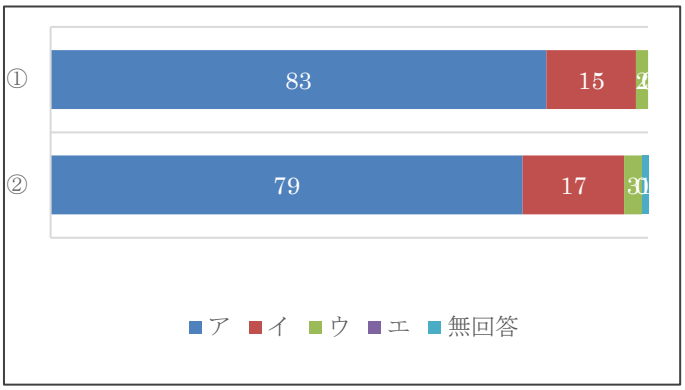
１　保護者アンケートより（回収率　99.5%　自由記述の記入率　36.4%）

（１）重点目標について

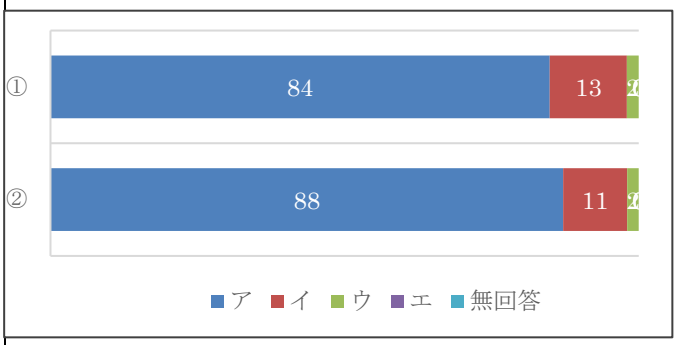
重点目標１



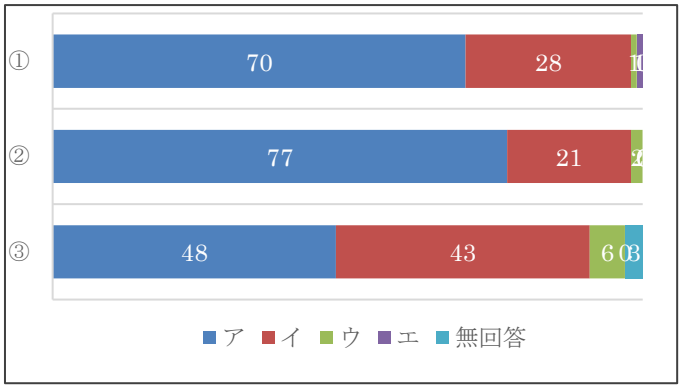
重点目標２



重点目標３



重点目標４



ア：そう思う、よくできている　イ：ややそう思う、できている　ウ：あまり思わない、できていない
エ：そう思わない、とても課題がある

○ほとんどの指標で、90%以上の保護者が「おおむねよい」（ア＋イ）、70%以上の保護者が「よくできている」（ア）と評価している。

○特に重点目標３の評価は高く、①友達と遊ぶ楽しさは日々の保育の様子を伝えられたこと、②はオリンピック・パラリンピック教育に関連した取り組みについての評価が高かった。

○コロナ禍での教育についても評価が高い。重点目標1－②、重点目標2－①は、コロナ禍での活動の工夫を保護者が評価したことが表れている。

○一方で、評価が低かった重点目標４「家庭との連携」については、園公開等が少なく直接幼児の姿を見ていただく機会が少なかったこと、コロナ禍での保護者会等の工夫が評価されなかった。これについては、自由記述でも「もっと公開をしてほしい」「保護者会をオンラインにしてほしい」などの意見がたくさん挙がっていることにも裏付けられている。地域への発信も、保護者の目に見える形で実施していく必要がある。

（２）その他の項目について

○全ての項目で「おおむねよい」（ア＋イ）の評価である。「よくできている」の評価はほとんどの項目で70％以上である。

○特に評価が高い項目は、Ⅲ－②「活動に進んで取り組み楽しんでいる」Ⅳ－①「教育活動が計画的である」　Ⅳ－④「保護者の参観を工夫している」Ⅳ－⑦「運動遊びを積極的に取り入れている」についてである。

幼稚園の教育活動が計画的に行われており、その結果として幼児の育ちが促されていることへの理解がある。

○特に評価が低い項目は、Ⅲ－⑥「必要な生活習慣を身に付けている」Ⅲ－⑦「規範意識を身に付けている」Ⅲ－⑨「集団行動を身に付けている」Ⅳ－⑤「地域と交流している」Ⅳ－⑥「安全指導を推進している」である。重点目標の評価の傾向と似ており、生活習慣や規範意識が、保護者が望んでいるようには身に付いていないという評価である。また、地域との関わりについても、コロナ禍で少なかったことから評価が低い。

（３）自由記述から

○コロナ禍での教育活動の推進についての評価が多かった。

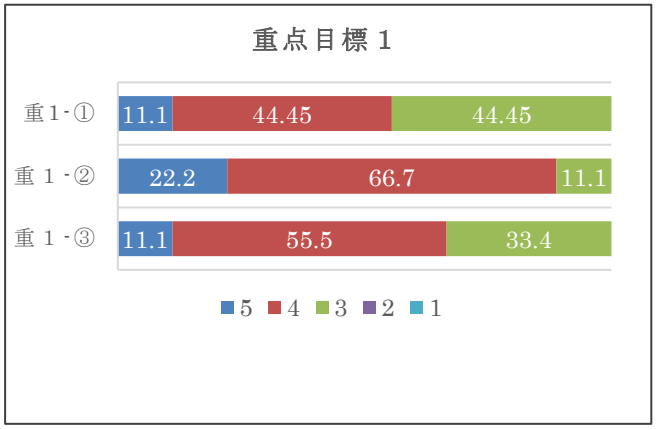
○園公開を望む声が多い。コロナ禍で、1学期の園公開が中止、2学期も短時間・少人数であったため、「もっと園の様子が見たい」という声が多い。直接的に見たい（園公開の回数増）、間接的に見たい（HP の活用、動画の配信、写真販売増）の声が多く挙がっている。HP については２学期に入り、保育内容や幼児の様子についての発信回数を多くしたことで一定の評価も上がっている。

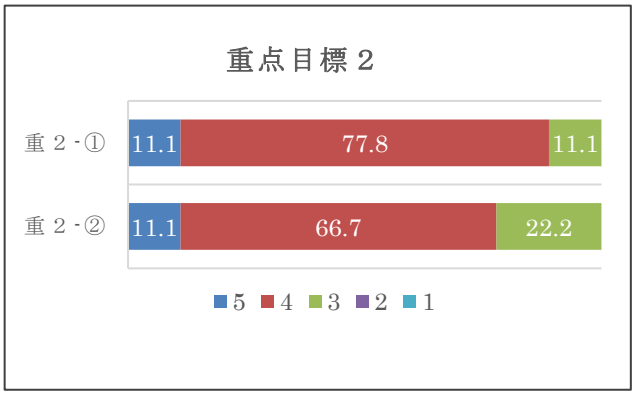
○保護者会の実施について、オンラインを望む声が多い。また、降園時の連絡方法の工夫も望まれている。

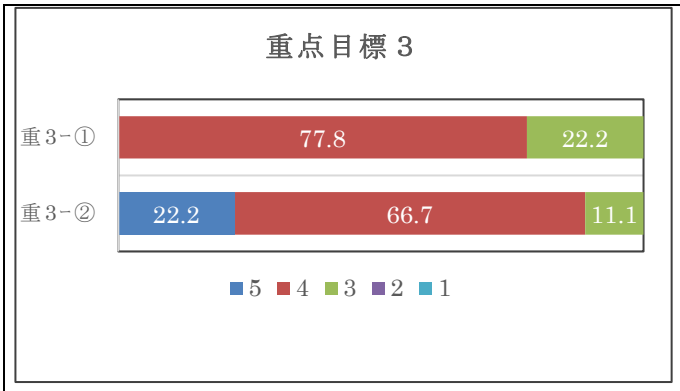
○降園後の過ごし方について、雨の日の降園の仕方について、長ズボンの着用について、なども挙がっている。教育内容についてよりも保護者と園との関わりに工夫についての意見が多かった。重点目標等との傾向と同じである。

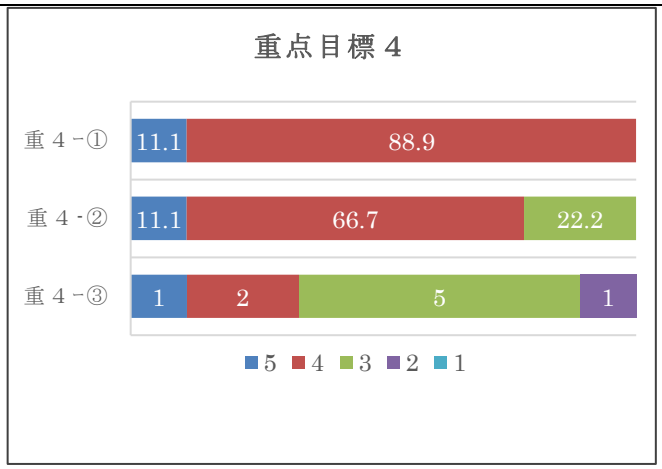
２　教員の評価より（10名中９名回答　回答率90％）

（１）重点目標について









○ほとんどの目標について、70％～90％の割合で「達成できた」と回答している。特に、重点目標４-①「ホームページや学年だより等の活用・発信」については、新型コロナウイルス感染症不安で登園できない幼児に園生活の様子を少しでも知らせることができるように、と始めた、各学年週１回の HP の更新に力を入れたことが起因する。

○園内研究のテーマとなった重点目標２についても、評価が高く、学級担任が知恵を絞っていろいろな活動を工夫したことがよかったという評価である。今年度は活動の工夫であったので、次年度は個々の育ちの見取りについて考えていきたい。

○コロナ禍での教育活動の工夫（１-②、２-①）についても、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、感染者を出さなかったことから評価が高い。また、オリンピック・パラリンピック教育も、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の掲示などを工夫したことが評価につながった。

○一方で、地域への情報発信（4-③）については評価が低い。HP は、発信対象の主たるものを保護者として更新していたので、同時に発信していた「地域」への意識が薄いことも考えられる。また、地域に出向いていく機会が少なかったことも要因の一つである。令和６年度に予定されている幼稚園の移転やその後の教育活動のことを考えたとき、地域や未就園児保護者への情報発信も広く視野に入れていく必要がある。

（２）その他の項目について

○概ね、平均３．５以上の評価であり、達成できたという評価が多い。
特に評価が高い項目は　オリンピック・パラリンピック教育、異年齢の関わり、HP での情報発信であり、昨年度より推進してきた活動は評価が高い。次年度は、その効果検証をする必要がある。

○一方で評価が特に低いものは次の通りである。

・保幼小の連携…小学校とは、交流の機会も少なく、小学校教員と実際に関わる機会もかなり少なくなってしまった。次年度は保幼小連携日をきっかけとして、保幼小の交流を計画したり保幼小連携日を企画したりして、連携を意識していきたい。

・OJT…初任者がいないために園内で意識が薄れており、低い評価となっている。実践を通した若手教員への指導助言を意識的に行うことが必要である。

・地域とのつながり…コロナ禍で実践としては十分ではない。次年度は、園の教育を広く知らせ、園児数を増やすためにも、行事を工夫していきたい。

３　教員と保護者の評価を比較する

（１）重点目標

○教員より保護者の方が評価はよい。

○評価の傾向は教員、保護者とも同じであるが、特に重点目標4について、教員はコロナ禍でできる

ことを試みたがその方法の「改善」について言及である。保護者は、もっと公開をしてほしい、など別の視点からの評価である。HP での発信の工夫により園での様子が分かるようにしたり、保護者会の開催方法を工夫したりなど、更なる新しいことへの挑戦が求められている。

令和４年度に向けた取組

評価からみた経営の改善点、さらに、次年度の行事等を鑑み、以下のとおり、次年度の経営、運営の重点について挙げる。

① 保育のねらいや個々・学級の育ちを十分に見取った教育活動の実践

＜具体策＞・日々の保育での読み取りや記録

・異年齢の友達との関わりから見た、個々や学級の育ちの読み取り

・読み取ったことを、保護者・地域に発信

② 80周年行事の成功と愛校心の醸成

＜具体策＞・日々の保育と行事をリンクさせて、年間を通してお祝いムードに！

③ 保護者・地域への発信の充実

＜具体策＞・①で読み取ったことを、地域へは HP で、保護者へは ICT 機器を活用し発信（出来事に加え「育ち」の発信）

・園公開、保護者会、保育参加の工夫　　続くことが予想されるコロナ禍において、「中止」から「工夫して実施」に変えていく、オンラインの活用

・未就園児の会の充実→平日昼間の開催、０，１，２歳児へのアプローチ